

青森県中古自動車販売商工組合

「ネットオークション」により成約率と会場外落札率が向上し、組合員の販路拡大に寄与

■所在地	〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢田113-240
■設立	昭和53年9月
■URL	—
■組合等の主な事業	(1) 中古自動車販売業に関する指導および教育 (2) 自動車のオークション事業
■組合等の地区	青森県
■組合員等の主な業種	小売業
■出資金額	4,650万円
■組合員数(所属員数)	89人

1 事業テーマ

平成27年度 インターネットを活用した組合員の取扱う中古自動車のオークション事業

2 事業の概要

当商工組合では昭和53年の設立当初より組合員の在庫車両を持ち寄って、それぞれの得意車種を売買する中古自動車のセリ市場を開催している。本補助事業実施前は、当会場に来た人のみがセリに参加し手セリを行っていたが、組合員からの要望により、どこから誰でもセリに参加でき、全国相場で売れる環境を整えるためにイ

ンターネットを利用したセリシステム「インターネットオークション事業」を開始した。

本補助事業では、当商工組合の上部組織のインターネットオークションJUNABIとの連携も図り、全国からセリの参加が可能となり、全国相場で販売が実現された。

3 取組みの背景や経緯

組合員からの要望が出た背景には、中古自動車業界では消費者向けの優遇策が少なく、消費増税が見込まれる上に、若者の車離れに伴う自動車人口の減少があった。これらの課題に対応するために、場所や参加者を問わないオークションを実現し、セリの回数を増やして販路拡大の場を組合として提供することが必要となった。

本補助事業に取り組むにあたり、「ネット推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、他組合の事例も参考にしながら青森県の特長を加味してインターネット環境を構築する準備を整え、全組合員全員の利用を目指して説得を行い、組合内の運営体制も整えた。

4 具体的な成果

本補助事業により「インターネットオークション」のシステムが構築され、平成28年3月29日に第1回目のオークションを開催し、青森から全国へ向けてその開始を発信した。当日は380台を超える出品があり、以前の「手セリ且つ当会場のみ」という「閉鎖的」な事業から、全国各地からのセリ参加による「外部応札」が可能で「開放的」な事業に脱皮した。

事業開始前後の比較をすると、「手セリ」時代は150

～200台規模で年10回開催していたが、3年目の現在は平均250台で年22回開催となっている。またセリの時間が3時間から1時間に短縮され、全国から事業者が参加するため（会場外落札率：0→29.3%）全国相場で取引されることもあり、組合員からは本事業に対して「便利になった」とか、「より高く売れるようになった」等々組合員の販路拡大につながり好評である。

当商工組合においても出品台数や成約台数が飛躍的

に増え、利便性もあって組合員の数も従前の84人から89人に増加し、且つオークション会員も7社から13社に増加している。更に事業が契機となって組合員の若返りも進んでおり青年部の一層の活躍も期待できるようになった。一方、事務局においても計算書がオークション終了後自動的に即時に計算され夜中までかかった作業がPC-FAXで即時に送れるようになり作業効率が大幅にアップした。

その他にも、本システムを軌道に乗せるために政策的にセリ関連の手数料の値下げに踏み切ったことで、出品

台数や成約台数の増をもたらす結果となり効果が出た。これにより平成29年度年間実績で見ると3,413台（システム構築前比+53%）になったことから、本補助事業申請時に設定した「2年後の所期目標」も+5%超でクリアした。また肝心の手数料収入は61,128千円から74,912千円（同比+23%）に大きな伸長を得た。一方、組合側としては手数料経費（原価+販売費+一般管理費）が出品1台当たり8.4%程のコスト改善として成果が出ている。

5 成功要因（成功に導くためのポイント）

一番は当商工組合の石山理事長による強いリーダーシップである。現状を変えるには大きな決断が必要であり、理事長が不転で取り組んでいたことは大きな推進力になった。また、役員や事務局も一丸となって組合全体で取り組んだことも成功につながっている。

次には前述した「ネット推進プロジェクトチーム」が、本補助事業を実施する以前から、内部で準備活動をしてきたことが挙げられる。其処では、他県の事例等を研修する傍らでシステム開発の要件洗い出しや仕様固め等の活動のみならず、組織体制や運用上の環境づくりなどのネット対応の運営・設営に関する総合的な態勢整備をも

並行して行い、組織を挙げて取り組んで来たこと、及び組合員への説明など地道な努力の積重ねが「手セリ」に馴染んだ業務形態を一変させる大きな変革であるにも拘わらず徐々に組合員の意識を変えて行ったと言える。

また専門家委員にシステムの設計監理の専門家が就いたことは本補助事業の短期開発に対して適切であった。更に内部留保の取り崩しによる組合財務への影響を極力抑えるべく委託開発費の低減と時間軸上の管理を含めた「プロジェクト管理」が強力に進められたことも見逃せない。

6 今後の活動予定

大きく3点ある。

一点目は、検査品質の向上である。車両撮影用カメラシステムの改善、検査ピットなどの現場設備、機器類の最新化と充足、そして検査員（有資格者）やシステム要員などの強化に向けて鋭意検討中である。

二点目は、「再セリ」の簡略化である。現状では、一度オークションで流れた車を組合で買い上げ、「再セリ」に出すという特殊なケースでは出品の操作手順を一から

繰り返さなければならず、改善策を検討中である。

三点目は災害・セキュリティ対策であり、2020年にJU各地でwindows7の更新時期を迎えるため、現在対策を検討中である。

尚、近い将来としては他県との連携オークションの仕組みづくりへ本腰入れて取り組みたいとのことであった。



システム概要図



インターネットオークションの画面